

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-100/10C	C-750	15-013 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>East asian variant of aldehyde dehydrogenase 2 is associated with coronary spastic angina: possible roles of reactive aldehydes and implications of alcohol flushing syndrome.</p> <p>東アジア特有の ALDH2 遺伝子多型は冠攣縮性狭心症と関連がある：活性型アルデヒドの果たし得る役割とアルコールフラッシング症候群の意味</p>		
<b>執筆者</b>		
Mizuno Y, Harada E, Morita S, Kinoshita K, Hayashida M, Shono M, Morikawa Y, Murohara T, Nakayama M, Yoshimura M, Yasue H.		
<b>掲載誌</b>		
Circulation. 2015 May 12;131(19):1665-73. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.114.013120.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール、アルデヒド脱水素酵素 (ALDH)、冠攣縮性狭心症		25759460
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 冠攣縮性狭心症 (CSA) は東アジアに多い。また、無活性化型 ALDH2*2 遺伝子多型に関連するアルコールフラッシング症候群 (AFS) も東アジア人種に多い。ADH1B 遺伝子多型および ALDH2 遺伝子多型と CSA との関連を解明することを目的とした。</p> <p><b>方法：</b> CSA 疑いで冠動脈造影とアセチルコリン負荷を実施した日本人 202 名 (CSA 群 112 名、対照群 90 名) を対象とした。ADH1B および ALDH2 遺伝子多型は TaqMan 法で判定した。AFS は、エタノール 10g 相当飲酒後の顔面紅潮の有無で判定した。</p> <p><b>結果：</b> CSA 群は、対照群に比べて男性、ALDH2*2、AFS、喫煙率および尿酸値が高く、HDL コレステロールの値が低かった。ADH1B 遺伝子多型間で CSA に差を認めなかったが、ALDH2*2 は ALDH2*1 と比較して、CSA の頻度が 26.6 ポイント高く、AFS の頻度が 69.2 ポイント高かった。さらに、AFS 群 (114 名) は非 AFS 群 (88 名) に比べ、CSA の割合が 27.7 ポイント高く、ALDH2*2 の割合が 69.2 ポイント高かった。多重ロジスティック回帰分析の結果、ALDH2*2 および喫煙が CSA と有意に正の相関を示した。</p> <p><b>結論：</b> 日本人において、ALDH2*2 および AFS は CSA と関連した。CSA の予防および治療において、アセトアルデヒド蓄積に対する介入の重要性を示唆した。</p>		